

著者一覧

(*は編者)

野村 駿 * (趣旨説明・まとめと展望)

所属：名古屋大学大学院教育発達科学研究科教育科学専攻博士後期課程／日本学術振興会特別研究員 (DC2)

専門領域：教育社会学、労働社会学

主要業績：

野村駿，2018，「なぜ若者は夢を追い続けるのか——バンドマンの『将来の夢』をめぐる解釈実践とその論理」『教育社会学研究』103，pp. 25-45.

野村駿，2019，「不完全な職業達成過程と労働問題——バンドマンの音楽活動にみるネットワーク形成のパラドクス」『労働社会学研究』20，pp. 1-23.

上地 香杜 * (趣旨説明・まとめと展望)

所属：名古屋大学大学院教育発達科学研究科教育科学専攻博士後期課程

専門領域：教育社会学

主要業績：

内田良・上地香杜・加藤一晃・野村駿・太田知彩，2018，『調査報告 学校の部活動と働き方改革：教師の意識と実態から考える』岩波書店.

上地香杜，2019，「地方からの大学進学における日常的な進路指導」『日本高校教育学会年報』26，pp.72-81.

張 林倩 (書評 「教育哲学—批判の後に何が来るのか?—」)

所属：名古屋大学大学院教育発達科学研究科教育科学専攻博士後期課程

専門領域：人間形成学

主要業績：

張林倩，2018，「新自由主義的統治に関する批判的考察—フーコーの統治性理論を手かりに—」『名古屋大学大学院教育発達科学研究科紀要 (教育科学)』第 65 巻第 1 号，pp.51-63.

張林倩，2019，「フーコーの統治性理論における新自由主義批判と主体形成の問題」教育哲学会第 62 回大会，於広島大学.

林 喜子 (柏木敦「日本教育史 一九九〇年代から二〇一〇年代までの動向」を読んで)

所属：名古屋大学大学院教育発達科学研究科教育科学専攻博士後期課程

専門領域：教育史学

主要業績：

林喜子・玉村公二彦，2017，「斎藤千栄治の「劣等児」「低能児」「精神薄弱児」観の検討—「奈良女子高等師範学校在職中の手記」(大正初期)及び雑誌『小学校』掲載記事を中心に—」『次世代教員養成センター研究紀要』3，pp.41-49.

林喜子，2019，「奈良女子高等師範学校附属小学校における「特別学級」の成立」『日本の教育史学』62，pp.20-32.

藤井 利紀 (『教育研究の新章』の「西洋教育史」を読んで)

所属：名古屋大学大学院教育発達科学研究科教育科学専攻博士後期課程

専門領域：教育史

主要業績：

藤井利紀，2016，「プロイセンの国民学校教員に求められた能力—卒業試験規程に着目して—」，名古屋大学大学院教育発達科学研究科教育科学専攻『教育論叢』59，pp. 95-104.

藤井利紀，2019，「キール教育アカデミーにおける学外実習改革に関する研究—教育アカデミーの理念の具体化を求めたカリキュラム改革の視点から—」『日本の教育史学』62，pp. 100-113.

田中 眞帆 (書評：教育方法学『教育の学習化』を問い直し教育的価値の探究へ)

所属：名古屋大学大学院教育発達科学研究科教育科学専攻博士後期課程

専門領域：教育方法学、教育工学

埜寄 志保 (書評：教育方法学『教育の学習化』を問い直し教育的価値の探究へ)

所属：名古屋大学大学院教育発達科学研究科教育科学専攻助教

専門領域：教育方法学

主要業績：

埜寄志保，2017，「公共的コミュニケーションとしての話し合い活動の可能性—小学6年生国語「海の命」の解釈過程の分析—」『名古屋大学大学院教育発達科学研究科紀要（教育科学）』63(2)，pp.85-97.

埜寄志保，2020，「社会科の初志をつらぬく会」における問題解決学習の今日的意義—「切実性論争」の再検討を手がかりに—」『名古屋大学大学院教育発達科学研究科紀要（教育科学）』66(2) (掲載決定，頁未定).

赤松 大輔 (わが国における近年の教育心理学研究の動向)

所属：名古屋大学大学院教育発達科学研究科心理発達科学専攻博士後期課程

専門領域：教育心理学

主要業績：

赤松大輔，2017，「高校生の英語の学習観と学習方略，学業成績との関連—学習観内，学習方略内の規定関係に着目して—」『教育心理学研究』65，pp.265-280.

Akamatsu, D., 2017, "Reciprocal relationships between learner beliefs and learning strategy use" *Educational Technology Research* 40, pp.107-119.

宇野 由紀子 (書評論文 教育法学と教育行政学の理論的展開と課題の整理)

所属：名古屋大学大学院教育発達科学研究科教育科学専攻博士後期課程

専門領域：教育行政学、教育法学

主要業績：

宇野由紀子，2017，「1960年代における高校生の政治的活動の制限に関わる不当な支配—69年通知と都道府県通知に着目して—」『日本教育行政学会年報』43，pp.121-137.

宇野由紀子，2018，「1960年代における高校生の政治的活動制限のロジック—69年通知と都道府県通知に着目して—」日本学術会議「第3回若手科学者サミット」.

松田 香南 (書評論文 教育法学と教育行政学の理論的展開と課題の整理)

所属：名古屋大学大学院教育発達科学研究科教育科学専攻博士前期課程

専門領域：教育行政学、教育法学

主要業績：

松田香南, 2019, 「教師の資質能力及び授業のスタンダード化と教師の自律性—島根県の教員研修計画分析を中心に—」日本教育政策学会第 26 回大会, 於秋田大学.

鬼頭孝佳・西田喜一・松田香南, 2019, 「公立博物館における『不審者』対応の行政学的検討」日本ミュージアム・マネジメント学会第 24 回大会, 於長崎歴史文化博物館.

坂野 愛実 (書評論文 教育法学と教育行政学の理論的展開と課題の整理)

所属：名古屋大学大学院教育発達科学研究科教育科学専攻博士課程後期課程

専門領域：教育行政学、教育法学

主要業績：

坂野愛実, 2019, 「学校教育法出席停止条項の改正と施行過程の検討」日本教育学会第 78 回大会, 学習院大学.

小長井 晶子 (書評論文 教育法学と教育行政学の理論的展開と課題の整理)

所属：名古屋大学大学院教育発達科学研究科教育科学専攻博士後期課程

専門領域：教育行政学、教育法学

主要業績：

小長井晶子, 2018, 「新生活保護成立前における文部省の就学奨励構想—義務教育無償制及び生活保護制度との関係を中心に」『日本教育行政学会年報』45, pp.122-138.

小長井晶子, 2019, 「就学援助制度の活用に向けて—お金の心配なく学校生活を送ってもらうために」吉住隆弘・川口洋誉・鈴木晶子編『子どもの貧困と地域の連携・協働—<学校とのつながり>から考える支援』明石書店, pp.36-52.

御代田 桜子 (教育ガバナンスの構造変容と教育経営学の射程)

所属：名古屋大学大学院教育発達科学研究科教育科学専攻博士後期課程/松本大学教育学部学校教育学科

専門領域：教育経営学、教育行政学

主要業績：

御代田桜子, 2019, 「学校統廃合に伴う学校・地域連携の再編過程—人口減少社会における「地域教育経営」の再構築—」『日本教育経営学会紀要』61, pp.62-77.

御代田桜子, 2019, 「コミュニティ・スクールの導入と学校・地域の連携—阿智村の事例分析—」『民主教育研究所年報』19, pp.101-114.

太田 知彩 (書評「教育社会学 アクティベーション的展開とその外部」)

所属：名古屋大学大学院教育発達科学研究科教育科学専攻博士後期課程

専門領域：教育社会学

主要業績：

太田知彩, 2018, 「社会的事実としての留学研究の可能性—日本人大学生の留学要因を理解するために—」『教育論叢』第 61 号, pp.17-26.

内田良・上地香杜・加藤一晃・野村駿・太田知彩, 2018, 『調査報告 学校の部活動と働き方改革：

教師の意識と実態から考える』岩波書店。

内田 直義 (2つの比較教育学的視点で見るエジプトへの「特別活動」導入)

所属：名古屋大学大学院教育発達科学研究科教育科学専攻博士後期課程／日本学術振興会特別研究員 (DC2)

専門領域：比較教育学

主要業績：

内田直義, 2019, 「20世紀後半エジプトにおける農村部の近代的イスラーム学校の拡大：住民の『自助努力』による学校設置過程に着目して」『比較教育学研究』59, pp.23-45.

中島悠介・内田直義, 2019, 「第6章 エジプトにおける学位制度」南部広孝編著『後発国における学位制度の研究(高等教育研究叢書148)』広島大学高等教育研究開発センター, pp.69-82.

速水 幹也 (書評「教育経済学 教育学研究者はどこに『経済学』を見出し、向き合うのか」)

所属：名古屋大学大学院教育発達科学研究科教育科学専攻博士後期課程

専門領域：教育社会学、高等教育論

主要業績：

速水幹也, 2016, 「薬学教育改革の成果と課題 二段階の「出口」—「就職」と「国家試験」に着目して」『高等教育研究』第19巻, pp.165-185.

立石慎治・丸山和昭・速水幹也・松宮慎治・中尾走・村澤昌崇, 2019, 「高等教育研究と計量分析」『教育社会学研究』第104集, pp.29-56.

東岡 達也 (書評「高等教育論：その意義が実感される日は来るのか」)

所属：名古屋大学大学院教育発達科学研究科教育科学専攻博士後期課程

専門領域：高等教育論

主要業績：

東岡達也, 2020, 「大学におけるサイエンスコミュニケーションの役割—インタビュー調査に基づくサイエンスコミュニケーターの役割認識に焦点をあてて—」『名古屋大学大学院教育発達科学研究科紀要(教育科学)』66(1), pp.85-97

竹井 沙織 (1990年代から2010年代までの社会教育学研究の動向)

所属：名古屋大学大学院教育発達科学研究科教育科学専攻博士後期課程

専門領域：社会教育学、青年期教育

主要業績：

竹井沙織・小長井晶子・御代田桜子, 2018, 「生活困窮世帯を対象とした学習支援における『学習』と『居場所』の様相—X市の事業に着目して—」『名古屋大学大学院教育発達科学研究科紀要(教育科学)』65(2), pp.85-95.

竹井沙織, 2019, 「知的障害のある青年の学校卒業後における学びの展開—青年期教育としての実践に着目して—」『社会教育研究年報』第33号, pp.60-69.

二村 玲衣 (1990年代から2010年代までの社会教育学研究の動向)

所属：名古屋大学大学院教育発達科学研究科教育科学専攻博士後期課程

専門領域：社会・生涯教育学

主要業績：

二村玲衣，2019，「美濃加茂市民ミュージアムにおける博物館と学校の連携関係の構築—『博物館教育』の分析による課題を枠組として—」『名古屋大学教育発達科学研究科紀要（教育科学）』66(1)，pp.27-39.

二村玲衣，2020，「雑誌『新しい家族』にみる里親支援の視角とその変遷—委託前支援から委託後支援への着目過程—」『社会教育研究年報』34，pp.76-90.